

議会改革推進特別委員会分科会会議録

(議員定数の適正化に関する事項)

1. 日 時 平成26年12月10日(水曜日)  
午前9時35分～午前10時10分
2. 場 所 委員会室
3. 出席委員 下井克己 座長 荒山光広 委員長  
竹岡昌治 委員 徳並伍朗 委員  
岩本明央 委員 萬代泰生 委員  
高木法生 委員 馬屋原眞一 委員  
俵 薫 委員
4. 欠席委員 なし
5. 出席した事務局職員  
石田淳司 議会事務局長 大塚 享 議会事務局係長  
野尻登志枝 議会事務局企画員
6. 説明のため出席した者の職氏名  
なし
7. 会議の次第は次のとおりである

午前9時35分 開会

○座長（下井克己君） 皆さんおはようございます。それでは、ただいまより議会改革推進特別委員会分科会、議員定数の適正化に関する事項の会を開会いたします。

まず、前回皆様方をお願いしておきました会派と、その会派に関する市民の皆様  
の御意見を集約して、会派でまとめてくださいということをお願いしておきました。  
その各会派の方がおられますので、順番どちらでもいいんですが、会派としての意  
見を述べていただければと思いますが。はい、馬屋原委員。

○委員（馬屋原眞一君） それでは、政和会としまして内部で話し合いましたが、前  
回の資料の一番下にも書いてありますが、いろいろ近隣のことを考え、また、当市  
の現状を考えますと、15から17で一応答申をしたらということの内容で意見が  
まとまっております。

以上です。

○座長（下井克己君） はい、萬代委員。

○委員（萬代泰生君） それでは、新政会の意見のまとめを報告したいと思いますが、  
新政会とすれば、16から18ぐらいというふうな幅を持たせた形のほうがいいん  
じゃないかということであります。

以上です。

○座長（下井克己君） はい、岩本委員。

○委員（岩本明央君） 純政会のほうから御報告を申し上げます。今萬代委員からも  
お話がありましたように、私どもの会も、事務局からの資料、それから、竹岡委員  
からの資料と、いろいろ検討しまして、16から18ぐらいというふうなことが、  
我々会派としては一応出ております。

以上です。

○座長（下井克己君） はい、俵委員。

○委員（俵 薫君） 友善会ですが、友善会ではこの件については、はっきりいっ  
て意見が割れております。これちょっと私の個人的な意見で怒られるかもしれませ  
んが、16から18が妥当ではないかなというふうに思っております。

以上です。

○座長（下井克己君） もう一つの意見というのは、割れとる意見を。

○委員（俵 薫君） もう少し下で良いと。定数は少なくてもいいということ。

○座長（下井克己君） 今の16から18よりも少なくていいと。ありがとうございました。皆さんの机上に、このたびの報告会の時に出ました意見が載っております。

会次第ともう1枚あると思いますが、それが、このたびの報告会の中で麦川と嘉万と赤郷での参加された方の、定数に関する御意見をお聞きしたところこのような意見が出ました。ちょっと読み上げます。

まず、議員定数に関する議論は積極的に行ってほしい。次、定数の適正化を議論する際、市域が広いことを加味する必要はない。3、定数の問題は議会で議論すればいい。4、定数の多少よりも議員の資質向上を図るべき。5、議員報酬等費用的なことも考える必要がある。6、近隣他市と人口比較すると15から17が適正と考える。と、このような意見が出ました。今の会派の方のほうの御意見も、15から17、16から18と、ほぼ二つの意見が出ております。15から17、16から18で委員会のほうに上げるのはいいんですが、どちらかを上げたいと思います。15から18というのは幅が広すぎますので、15から17、16から18ぐらいで上げたいと考えますが、このどちらかを上げるということに関して皆様方よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○座長（下井克己君） よろしいですか、はい。では、どちらを挙げるかということについて、皆様方の御意見をちょっとお聞きしたいと思うんですが。今度は委員として個人的な御意見で結構だと思います。もしございましたらお願いします。

〔発言する者あり〕

○座長（下井克己君） どなたか御意見お願いします。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 個人的な意見言えということになると、ちょっと会派で決めたことが、ちょっと逆になる感じ。

○座長（下井克己君） 会派の意見を変えるわけにもいかないですよ。そこもちょっとどういうふうにいったらいいか。

○委員（竹岡昌治君） 個人的なということになると、今県内を比較して、これに意見があるように、市の広さ関係ないじゃないかという市民の皆さんの声があるとすれば、もっともっと下になっちゃうほいね。データを分析すると。そうしたら10人でもいいじゃないかという議論になっちゃうので、いくら何でも10人というのはめっちゃくちゃな話で。

○座長（下井克己君） それは私——先ほど私申したと思うんですけど、15から17か、16から18に関してどちらかで決めたいと。

○委員（竹岡昌治君） そう言うんやったら、会派で決めた我々は15から17、あくまでも、それをやっていきたいと。その中で本委員会で、また皆で議論していただきたいと思うんですね。本会議もこのデータ出されるんでしょう。

○座長（下井克己君） 前回皆さんに。

○委員（竹岡昌治君） 出した。じゃ、皆さんも理解できちよるいね。じゃ、我々は政和会のメンバーとしたら、ちょっと何ぼ個人的な意見言えと言われても。

○座長（下井克己君） 私の言い方が悪くて申し訳ございませんでした。そういうふうに言われますと、政和会さんが15から17、新政会、純政会さんが16から18、友善会さんは15から18という感じになってくるんですかね、大体。これをまたここで決をとるというのもおかしいと思うんですよ。

それでどのように取扱いましょうか。

○委員（竹岡昌治君） 任せるけど、データ上からすればもっと低い。

○座長（下井克己君） もっと低いです。

○委員（竹岡昌治君） それをやっぱり考えていかにやいけん。それでも現状からすればと、下限が15くらいだろうと。上限が17じゃろうという考え方。

○座長（下井克己君） そのような同じような考え方で16から18も出ておると思うんですよ。

○委員（竹岡昌治君） 実際は14じゃろう。

○座長（下井克己君） 14なのか13なのかそこは。人口比率でいけばもっと低くはなると思います。ですが今の皆さん方の御意見で、ちょっと幅広いですけど15から18以内でという意見でしたので。その中で15から18を委員会に上げるというのはちょっと幅が広いと思いますので、15から17ぐらいが妥当なのか、16から18ぐらいが妥当なのかということで、この分科会として委員会のほうへ上げたいと思うんですが。

それぞれ、会派のほうで話し合われた意見ですので、これを変更するということは難しいと思います。はい、高木委員。

○委員（高木法生君） 定数の件は、この前各報告会でいろいろ市民の方の御意見も聞いての話で、あれは一応参考までということであったと思うんですよね。我々は

またいろいろな角度から検討して、会派で一応今申したとおりになっております、16から18が一番多いんで、この線で答申というか、したらどうかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○座長（下井克己君） 今の16から18のほうの御意見ということなんですが。これって変えられないでしょう。会派の御意見というのは、まず。かといって多数決というのもちょっと。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） データから見ても、前回説明を、私のほうからさせてもらったと思うんですね。例えば14にしても、萩市それから、美祢市、それから長門市、この辺が北浦三市と言ったところが大体同じぐらいなんです。人口割が。面積はいくら減していっても断トツトップなんです美祢は。何ぼ減してもだめと。そういうことだったですよ。それから、財政規模的に見ても、14で萩と並ぶぐらいなんです。長門よりはちょっと効率が良くなります。15にしていくと、15でやってみると人口比率からすると、美祢市が一番、ワースト1になるんですね、やっぱり人口比率が。面積は断トツです。財政規模でいくと15にすると、美祢市、それから光、萩は外れますね、ぐらいで県下でもあまりいいほうじゃないんです。財政規模からしても。ですから、我々は14というのもちょっといかなものかなというんで、15という線を出したんです。本当は14という線が出したいんじゃないけど。やっぱり皆さんのそれぞれの地域の問題もあるだろうし、あまり減すと、これ失礼な言い方しますが、合併市町村で例を見ると、どうしても郡部のほうに、議員さんがおらなくなるという弊害が出ますよね。それは避けたいという気持ちで申し上げたんで。親会でも同じことを。

○座長（下井克己君） ありがとうございます。はい、岩本委員。

○委員（岩本明央君） 先ほど座長のほうから話が出ておりますけど、この4番の定数の多少よりも議員の資質向上を図るべきというのは、非常に私どももショックでございまして、こういうふうな意見もあるなというようなことも痛切に感じております。

それから、皆さんが先般竹岡委員のほうから話がありました、資料がありましたけれど、議員手帳を持っておられる方はですね、私これちょっと、同じようなところを見て、例えば広島県の安芸高田市、徳島県の三好市、それから岡山県の高梁市と、これを見ますと、人口数、それから市の面積、予算規模、それから公立小中学

校、公民館の数、それから市町村道、道路の長さですね、それからもう二つは6として市の地形、例えば山間地域とか中山間地域とか平野地域、これらはすごい条件が変わってくるんじゃないかと思っております。例えばの話が、美祢市は海に面しておりませんので、水産関係がありませんし、今の広島県の安芸高田市もそうですし、岡山県の高梁市なんかも同じように言えると思います。そういうことで、さっきの話もありましたように、やはり個人的には、17というのは全部の会派が絡んでおりましたんで、17ぐらいかなという感じもせんではないんですけど。私の個人的な意見ですよ。

○座長（下井克己君） はい、ありがとうございます。ほかにございせんか。それでは、申し訳ございませんが10時まで暫時休憩といたします。

午前9時50分 休憩

.....  
午前10時00分 再開

○座長（下井克己君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいまの15から17、16から18という二つの意見が出ております。特別委員会のほうに上げるのに、15から18といのは幅が広いんじゃないかと思えます。でも、それでまとまればそれでも仕方ないんですけど、先ほどの意見の中で16と17というのが皆さんダブっておられます。15から18という意見にするのか、16、17のどちらかということで上げる、二つの考え方があると思うんですが、私個人的な意見としましては16、17を上げたいと思うのですが、皆様方はいかがでしょうか。

15と18という数字が消えるわけではございますが——はい、どうぞ。

○委員（竹岡昌治君） さっきね、休憩の前に、岩本委員から言われた、公民館の数とか、学校の数とかをおっしゃたんですね。あれが財政規模に入るんです。全部。それは具体的なことをおっしゃったと思うんですが、人口も含めてみんな、道路の長さとか、それらも皆、財政規模の中に入るんで、今、座長が提案されたように、16から17ということになると、財政規模的には小野田、それから長門、美祢。同じぐらいの規模になりますね——ひとりあたりが。それから、人口的にはちょっと大きな問題があるんですが、財政規模的には16にした場合、人口ももう、一番やっぱ悪いんか——そうすると面積的にしますと、だいたい美祢市、それから萩市、

まあそのクラス、ひいて言えば岩国までぐらいが同じ規模で16ぐらいになると思います。百歩譲って、15から18っていう答申は、あまりにも無責任やないかと思うんですね。まあその辺で、16、17が皆さんの意見が全部かぶってるから、私は座長の提案でいいと思います。

それから、ただもう一つ、真摯に受け止めていかななくちゃいけないのは、議会報告会で、議員の資質の向上——これはもうひとつのほうの分科会で、議論をされてるんでしょうか。委員長さんおってやからお聞きしたいと思います。正直言って、我々過去2年間、ほんとに美祿の議会っていうのは笑われ者になってきているんで、ほんとの議論ができていない。私はそう思ってます。それから、5番目に書かれている、議員報酬、費用的なことも考える必要があると。これは、ちょっとお聞きするんですが、歳費を下げよという意味なのか、上げよという意味なのか、そのへんが聞きたいんですね。というのは、残念ながら美祿では——美祿ではどうなんですかいね、共産党の議員さん、公明党の議員さんがほぼ専従に近い議員さんだろうと思うんですが、それ以外はほとんど兼業議員さんですよ。

今の状態で、市長がまあ諮問しないという方針ですから、仕方がないんですが、二十数年間、歳費は上げもしなければ、下げもしないという状態なんです。確かに、市民の皆さんのレベルから見ると、私らみたいな体たらくの議員には高すぎるよと、という言い方があると思います——

○座長（下井克己君） それは、済みません、よろしいですかね。竹岡委員もおられたと思うんですけど、確か赤郷のほうで出た御意見です。

○委員（竹岡昌治君） 赤郷は仕方がないという言い方……

○座長（下井克己君） いや、若者が議員に出るためには、今の報酬ではちょっと低いんじゃないかという意見を言われたと思うんですが、あの時。

○委員（竹岡昌治君） なら、同感なんですけど、何が言いたいかっていうと、どこかであるんですよ。若い方が40代の方が議員に出られてですね、ほんで1カ月せんうちに辞められたんですよ。歳費が低いのにびっくりしたと。生活できんということで辞められたという一例があるぐらい、実は低いんですね。で、昔あの、昔だったって20年も前の話なんですけど、私、大阪の松原市に視察に行ったときにですね、専従議員さんが何人いらっしゃるんですかって聞いたら、事務局がですね、誠に残念ながら1人って言われたから、1人しか居ないのかなって思ったら、一人ほど兼

業議員ですと。あとは全員専従議員ですと。歳費が60万以上ですから。

それならば、今、岩本委員言われたように質のいい議員さんも、出てくるだろうというふうな気がするんですね。

私だから、これがどっちだったかなあと思ったんですが、赤郷でこういう意見が出たんですかね。

○座長（下井克己君） 確か、私はまあ……

○委員（竹岡昌治君） そうですか。そうするとこれは、もう少し若い方、それから質のいい方が出るためには、もう少し歳費を上げるべきではないかという表現のほうが良いんじゃないですか。これ、ちょっと解りにくいんです。上げろっていうのか、下げろっていうのか。

○座長（下井克己君） 申し訳ございません。確かあれは赤郷の時に市民の方が、若い者が今では出にくいんじゃないかという意見を言われたと、私は判断しています。これ、ちょっと書き方が申し訳ございませんでした。

ほかに何か御意見ございませんでしょうか。はい、荒山委員長、さっきの件。

○委員長（荒山光広君） さっきの4番目の項の、定数の多少より議員の資質向上をということですが、前回の議会改革の推進に関する分科会でですね、議論まではいってないんですけども、意見として今回こういった特別委員会を設けられたのは、議会改革よりも議員改革が大事じゃないかというふうな意見も出ていますから、今後また分科会の中でそのへんの話も出るんじゃないかと思います。

○座長（下井克己君） はい、岩本委員。

○委員（岩本明央君） 今の議員報酬等に関わる問題もありますが、費用弁償等は完全に切っておりまして、経費的なものは確かにあのう——報酬はずっといま竹岡委員が言われましたように変わってないんですけど、費用弁償を切っておりますので、議会費、費用的なものはやはり相当下がっておるんじゃないかというふうに感じております。私の考えですけどね。

以上です。

○座長（下井克己君） はい、徳並委員。

○委員（徳並伍朗君） 2番目の、議員定数の適正化を議論する際、市域の広さは加味する必要はないということはですね、やっぱり人口のことも考えよということだろうと思っています。



残念ながら美祢市は、100人生まれて、300から400人は亡くなられておると。まあ自然減がですね、年間300近い。3年すれば本当に1,000人ぐらい減るといような、現状はですね、そういう厳しい状況でありますので、改革をするんなら、思い切って改革をするということで、私は15ぐらいでいいんじゃないかなという気はいたします。

○座長（下井克己君） いいんですけど、済みません、今16か17ということで御意見を伺っておったんやけど——それでは今、いろいろ御意見は出ましたが、当分科会といたしましては、16か17ということで、特別委員会のほうに上げたいと思いますが、これでよろしゅうございますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○座長（下井克己君） ありがとうございます。それでは、16か17ということで特別委員会のほうへ上げたいと思います。

それでは、これにてこの分科会自体がもう閉会となります。閉じたいと思います。ですから、あとはもう特別委員会のほうで……

〔「そうするともう我々の役割は終わったと。」と発言する者あり〕

○座長（下井克己君） そうなります。はい、特別委員会のほうでまた御意見を、荒山委員長のほうへ言っていただければと思います。

では、皆さまお疲れ様でした。本日はこれで閉会いたします。

午前10時10分 閉会

---

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成26年12月10日

議会改革推進特別委員長

荒山光宏

議会改革推進特別委員会分科会座長

下井元己